

山口県高P連 会報

令和5年2月15日発行

25号

発行 山口県公立高等学校PTA連合会
〒753-0072 山口市大手町2-18 山口県教育会館2F
TEL 083-923-4761 FAX 083-923-4785
http://ymg-kpren.jp/ E-mail ymgt.koup@etude.ocn.ne.jp

ごあいさつ

山口県公立高等学校PTA連合会

会長 中村 二郎



会員の皆様におかれましては、平素よりPTA活動にご理解ご協力をいただきまして感謝申し上げます。

今年度の夏以降も、PTA執行部の方々、先生方のご尽力により感染対策を講じながら各種部活動の大会や学校行事が開催され、3年生にとっては制約があったものの、思い出に残る高校生活が送れたのではないのでしょうか。

さて前号にて記載しておりました、PTA中四国大会愛媛県大会並びにPTA全国大会石川県大会に、県内の単位PTA執行部の方々と参加してまいりました。本誌に詳細を記載しておりますので一読いただけると幸いです。やはり全国どの学校もこの2、3年、どの様にPTA活動を行えば良いか大変ご苦労されておられましたが、色々なことを中止するのではなく、コロナとうまく付き合いながら活動を再開しようとする変化を感じる大会でした。

その様な中、県内7地区に分かれて地区別連絡協議会が対面形式で3年ぶりに行われ、今回はその内5地区に参加させていた

だきました。各地区とも学校設備や登下校時の安全対策・J・R問題等様々な要望を挙げていただきました。それらを11月28日、山口県教育委員会 繁吉教育長のもとに要望書を提出し、各学校からの要望を速やかに実行していただくよう申し入れました。予算の関係上、緊急性の高いものから随時行なっていくと回答をいただきましたことをご報告致します。また今回の回答の詳細につきましては、次号に掲載いたします。

まで通りの活動は難しいかと思いますが、無理なく・可能な範囲で今の時代に合った新しいPTA活動を行なって頂きたいと思っています。「PTAは子どもたちの応援団」です。この不安定な世の中に羽ばたこうとする子どもたちは、期待より不安が大きいかと思えます。その様な中、我々保護者がしっかりと寄り添い、支えていくことが子どもたちにとって何よりも安心して、前へ進んで行くことができます。一人ひとりでは難しいですが、各単位PTA並びに高P連一丸となつて、子どもたちの夢の実現に向けて頑張つて参りましょう。

【お知らせ】

令和5年度 第76回山口県公立高等学校PTA連合会 総会

日時：令和5年6月2日(金)13:30～
会場：かめ福オンプレイス (山口市湯田温泉)

令和5年度 第65回中国・四国地区高P連大会 岡山大会

日時：令和5年7月14日(金)
会場：倉敷市民会館 (岡山県倉敷市)

令和5年度 第72回全国高等学校PTA連合会大会 宮城大会

日時：令和5年8月24日(木)・25日(金)
会場：カメイアリーナ仙台 他 (宮城県仙台市)

県教育長へ要望書提出について

地区別連絡協議会（7地区）及び常任委員会から提出された要望事項と昨年度までの要望事項を再検討し、以下の内容について「令和5年度要望書」として11月28日（月）に中村会長、銭廣顧問、田中副会長、佐々木副会長、大村副会長から県教育委員会の繁吉教育長に提出し、意見交換を行いました。下記の各要望事項についての回答書を、3月にいただくことになっています。

要望事項

- 子どもたちの健全育成と地域連携教育の推進について
 - 学校・家庭・地域社会との連携・協働体制の確立
 - コミュニティ・スクール機能の充実
- 県立高校の再編整備とそれに伴う教育現場への配慮支援について
 - 校舎等の部分的な老朽化対策ではなく、全面的な建替えの検討
 - 質の高い高校教育が維持されるような教職員配置
 - 遠距離通学生生の負担軽減（奨学金の貸与・支給）
- キャリア教育の推進と進学支援・就職支援の推進について
 - 「やまぐちの活力を支える高校生就職支援事業」等、各種事業の継続、普及
- 施設、設備の充実と安全な教育環境の整備について
 - 校舎・施設・設備の老朽化への計画的な対応
 - 特別教室、実習室、準備室、体育館への空調設備の設置、トイレの様式化
 - ICT機器やネットワーク環境の整備
 - 教員の指導力（ICT関連を含む）の向上に向けた研修の実施
 - インターネット環境のない家庭への支援・予算措置
 - SNS上のトラブルの未然防止等
 - 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を踏まえた、安全・安心な学校づくりに向けた施設・設備の充実、保健衛生用品の購入、適時・適切な情報共有（市立学校を含む）
- 部活動の充実活性化について
 - 外部部活動指導員の適切な配置、中学校で進んでいる部活動の地域移行の状況についての情報共有
 - 「運動部活動の在り方に関する方針」「文化部活動の在り方に関する方針」に基づく指導・運営体制の構築
 - コロナ禍における適切な部活動実施に向けた支援



- いじめの未然防止や相談・支援体制の充実について
 - 不登校生徒や学習が困難な生徒（県立中学生、高校生）への学習支援・生徒指導・教育相談体制等、支援機能の充実
 - 障害者理解教育の推進
 - 感染症に係る感染者やその家族を守る徹底した取組
- 通学手段の確保と生徒通学時の安全確保等について
 - 通学手段の確保と利便性の向上
 - 交通安全教室等、事故防止に向けた指導の継続
 - 登下校時の安全対策の徹底

令和5年度 主要行事予定

月	日	行 事
5	26(金)	令和4年度第5回常任委員会（山口県教育会館） 令和5年度第1回常任委員会（「」）
6	2(金)	山口県高P連総会（かめ福オンプレイス）
7	14(金)	第65回中国・四国地区高P連大会 岡山大会（倉敷市）
	25(火)	第2回常任委員会（山口県教育会館）
8	24(木) 25(金)	第72回全国高等学校PTA連合会大会 宮城大会（仙台市）
10	4(木)	第3回常任委員会（山口県教育会館）
R6.1	19(金)	研修会・情報交換会（会場未定）
R6.2	15(木)	第4回常任委員会（山口県教育会館）

祝 表 彰

本年度、以下の各団体・個人が表彰されました。
おめでとうございます。

◇全国高等学校PTA連合会会長表彰
（団体の部）

山口県立柳井商工高等学校PTA
山口県立宇部工業高等学校PTA

（個人の部）

高月 義夫 氏（山口県公立高等学校PTA連合会前副会長）
（山口県立柳井商工高等学校PTA前会長）

第64回中国・四国地区 高等学校PTA連合会大会愛媛大会報告

県高P連監事(小野田高等学校会長) 縄田 誠

令和4年7月26日(火) 松山市の愛媛県民文化会館において、第64回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会愛媛大会が開催されました。「笑顔から始まる絆づくり」無限の可能性を秘めた子どもと共に」をテーマに、中・四国各県から約1300名、山口県からは44名の会員が集い、熱心な協議を繰り広げました。

新型コロナウイルスの感染拡大により2年続いて中止となっておりましたが、座席の両隣を空席にして人数を減らすとともに、座席指定の措置を執るなど感染対策を執った上の開催となりました。

開会式では、中国・四国地区高等学校PTA連合会会長、全国高等学校PTA連合会山田博章会長による開

会式で



会長発表

会挨拶をいただきました。

開会行事の後、元サッカー日本代表監督で、現在は㈱今治・夢スポーツ代表取締役会長で日本サッカー協会副会長の岡田武史氏より「今治からの挑戦!」と題して記念講演がありました。

岡田氏は今治でサッカーチーム運営会社を立ち上げ、複合型スタジアム建設を目標に活動され地元企業からのバックアップもあり、2023年に開業予定とのことでした。「これからの社会を生き抜くには知性よりも経験値、主体性をもって自分で生き残る道を探さないといけない。持続可能な社会を築くためには「物の豊かさ」より「心の豊かさ」を大切にすることが社会創りに貢献したい」地球は未来を生き

未来を生き



情報交換会

る子どもたちから借りているもの、子どもたちのために今治から活動を広げていく。」と熱く語られました。

続いて高校生の発表では、過疎化により生徒数が減少する中、学校存続のため高校の魅力づくりに取り組んでいる7つの高校の取組や吹奏楽の演奏がありました。どれも素晴らしい発表でした。

PTA研究協議では、山口・香川・愛媛県三校のPTAが取り組む活動発表があり、山口県立山口中央高等学校PTA顧問で山口県公立高等学校PTA連合会 中村二朗会長から「地域とともに」地域と連携し進化していくPTA活動」をテーマに発表がありました。山口中央高等学校では学校運営協議会との協力や小中高の連携で「あいさつ運動」、高校生熟議2021の名称でこれまで話し合われる機会がほとんどなかった校則について、PTAと生徒会共同主催で「熟議」を開催した発表がありました。

閉会行事が行われ、来年の開催県となる岡山県に引き継がれ、愛媛大会は終了しました。

最後に開催県である愛媛県の皆様、準備・運営等、大変お疲れ様でした。どこを見ても愛媛県が詰まった素晴らしい大会に参加させていただき感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

【事務局からのお知らせ】

山口県公立高等学校PTA連合会ホームページから、これまでに発行された全国高P連会報、山口県高P連会報をご覧になることができます。

ぜひご覧ください。

(<http://ymg-kpren.jp/>)



大会会場

第71回全国高等学校PTA連合会大会石川大会報告

県高P連副会長(厚狭高等学校副会長) 田中 幸夫

第71回全国高等学校PTA連合会大会石川大会が、令和4年8月25日、26日の二日間にわたり、石川県金沢市のいしかわ総合スポーツセンターをメイン会場として開催され、山口県からは37名が参加してき



開会式

ました。近年、コロナ禍の影響を受け、全国のPTA会員が一堂に会した開催は3年ぶりです。今回は、現地参加に加え、Web配信も併用され、より多くの方が参加できる開催要領で行われました。従来の様に1万人近くが集うことはまだ無理のようですが、それでも会場には、約5000人強が集い、オンライン参加校も1000校を超える参加があったそうです。

催され、近年では、佐賀、京都、島根、石川と続き、来年は、宮城で開催されます。開催地となる県では、早くから準備に取り掛かり、県内の全公立高校のPTAが一丸となって、催されます。このような機会を通して、より強固な結びつき、連携、交流が実現していることが現地のスタッフの方々とお会いすると実感できます。参加する私たちも、このような場を通して、各校のPTA役員、担当の先生方と交流を深めることが出来、子どもたちの学びの場をより良い環境にしていけることが出来るのではないのでしょうか。

さて、今回の石川大会会場の金沢市は、移動に半日を要する為、前日移動で参加しました。新幹線で大阪まで行きサンダーバートに乗り換えて金沢まで。琵琶湖の側を通る際には、青い空と琵琶湖の風景を眺めることが出来ました。しかし、久々の電車移動でのべ6時間も座り続けは、お尻が痛かったです。金沢到着後、夕食までの空き時間を利用して、同行した皆さんと日本を代表する三大庭園の一つ、兼六園を観光。私はその後、自由時間を利用して、おとなりの金沢城公園へ足を運んでみ



兼六園

ました。一部を除き、入園無料！遠くから眺めてよし、近づいて迫力もよし。外観の素晴らしさに必ず感動すること間違いなしと言って過言ではありませんでした。夜は、他校の方々とホテル近隣の飲食店へ行き、地産の食材を使った名物料理に舌鼓を打ちながら、公私様々な会話を楽しむことが出来ました。

一夜明けて、本題の石川大会へ参加。と、会場へ向かう前に。金沢の台所「近江市場」の雰囲気と「ひがし茶屋街」で古風なたたずまいを散策。そこで金箔プリンを堪能。そして中田屋の「きんつば」を手に心置きなく、いざ、大会会場へ向かいました。

会場は、街中かとおもいきや、田園広がる平野の中にあるアリーナでした。更に、外は大雨になり、さすが「弁当忘れても傘忘れるな」と言われる金沢。完全隔離の中、開会行事が始まりました。音響が悪いのか、座席位置が悪いのか、式典の内容がうまく聞き取れず、内容をメモ出来ませんでした。国歌

独唱では、生の歌声が、会場に響き渡り心が洗われるようで、大変感銘を受けました。独唱された金沢辰巳丘高等学校の坂真成(さかまさなり)さんは、高校入学後、本格的な声楽のレッスンを受けられ、合唱部員として、様々な賞を受賞されていたそうです。兎に角、素晴らしかった。

大会のテーマは、「輝く未来への礎」親から始める新時代の教育」。初日は、4つの分科会に分かれ、私は、第1分科会に参加しました。テーマは、「新時代の家庭教育・今伸ばすべき本場に必要能力」と題し、慶應義塾大学総合政策部の中室牧子氏と花まる学習会代表の高濱正伸氏の講演と質疑応答がありました。中室氏は、数値的な根拠を基に、高濱氏は体験を基に講和されていました。高濱氏は音楽が聞き取れず残念でしたがこれまた音声聞き取れず残念でした。二日目のスタートは、石川県立小松明峰高等学校吹奏楽部の演奏で始まりました。アリーナいっぱい広がる生演奏は、豪快なもので、「演奏は生に限る」と言いながら、みなさん満足の様子でした。

記念講演は、ファミリーマート顧問の澤田貴司氏。「やりたいことをやる」がテーマでした。学生時代成績は振るわなかったが、持ち味の運動能力を生かし、ラグビー部のキャプテンを務めるなど、自発的にやりたいと思ったことを貫き通し、社会に出てからも、やりたいことを求めて、いくつかな転職されています。その過程で、山口県宇部市を創業の地とし世界へ進出している、

ファーストリテイリングの柳井氏へ会うために宇部市を訪れるという、超身近に感じる話題もありました。更にダイエー買収にチャレンジされたり、サークルKサンクスとファミリーマート統合を指揮され、ブランド転換を成し遂げるなど、成功、失敗を繰り返しつつ、やりたいと感じたことを貫き通されています。心を打たれたのは、このように、第一線を指揮する上の立場にしながらも、現場とのコミュニケーションを重視し、常に現場の働き手と、エンドユーザを視野において改革を進められていることです。なかなかできることではありません。

また、「挨拶は自分から。目上の方を敬い、感謝する。」お父様はこの躰に大変厳しい方だったそうです。お父様を亡くされたとき、この躰は、何事にも感謝することを忘れず、利己ではなく、利他を大切にすることにつながり、人生で一番大事なことだと悟られたそうです。私たちも子供のころからよく言われていた様に思いますが、この教えを守ることもなかなか難しいことです。すぐに利己に走り、感謝することを忘

れがちになります。澤田氏の講演は、ファミリーマートをアピールするアイズブレイクの話題をはさみながら、あつという間の1時間30分でした。話を聞きながら、自分を振り返り、私も、社会に出て、工場の技術職でしたが、先輩からは、「現場100回！」とよく言われたな。とか、「やりたいことをやる」とは、私の好きな言葉で、「物の好きこ

そ上手なれ」にもつながるなと感じながら聞いていました。やりたいことを好きなだけやり通すには、楽しいことばかりではなく、それなりの努力も必要です。また、成し遂げるためには、一人ではなく、周りとの協調と理解も必要です。

これからの社会を担う子どもたちの時代は、目まぐるしい環境変化の中、先人が成功した事例をまねるだけでは、通用しなくなります。自分がやりたいことを貫く。言い換えると、人とは違った個人の価値観を生かし、新たな価値を生み出す力をつけておく必要があると思います。講師の澤田氏は、それをやったのけた一人ではないかと思えます。子どもたち個々の価値観が生きるよう、やりたいことがやれる教育環境が必要になっていると改めて感じた講演でした。



会場

令和4年度 小中高PTA・校長会 連絡協議会開催

この協議会は小・中・高の連携協力を図る趣旨から企画され、今年度は高P連が主管担当し、11月22日（火）に開催されました。

本年度は、協議会に先立って、山口松風館高校を視察研修し、「多様な学びのニーズに応える柔軟な教育システムをもつ新たなタイプの高校」をコンセプトとして誕生した、県内初の3部制の定時制課程と通信制課程を併せ持つ高校の学習環境を学びました。参加者からは、「一人ひとりの生徒にとって、安心できる環境づくりが学びにとって大切であることを改めて実感した」等の感想が聞かれました。その後の協議会では「外部部活動指導員の配置・活用状況」「コロナ禍におけるPTA活動の現状と課題」「地域連携教育の現状と課題」について、小中高の各校種における取組状況の違い等に関して、情報交換や意見交換を行いました。

今後この協議会が、小・中学校PTAおよび高校PTAの縦の連携強化を図り、学校・家庭・地域の連携、協働の取組をさらに充実・活性化させていくことにつながる機会となるよう取り組んでまいりたいと思います。



各地区で連絡協議会を 開催しました

- 1 岩国地区（書面開催）
主管校 高森みどり中学校・高森高等学校
- 2 柳井地区（7月22日）
主管校 田布施農工高等学校
- 3 周南地区（8月10日）
主管校 光高等学校、下松工業高等学校
- 4 山防地区（9月10日）
主管校 山口農業高等学校
- 5 長南地区（8月5日）
主管校 宇部中央高等学校、小野田工業高等学校
- 6 下関地区（8月5日）
主管校 下関南高等学校、下関工科高等学校
- 7 長北地区（7月14日）
主管校 大津緑洋高等学校（日置校舎）

学校紹介

山口県立柳井高等学校 P T A 会長 福 光 直 也

はじめに

本校は明治40年に開校された玖珂郡柳井町立柳井女学校と大正10年に開校された山口県立周東中学校を母体とした、今年で創立116年を迎える伝統校です。新制「柳井高等学校」の誕生は昭和24年であり、柳井高等学校時代から柳井女子高等学校まで使用した校舎を東校舎（通称「女子部」）として普通科・家庭科が併設、旧制柳井中学校から旧柳井高等学校まで使用した校舎を西校舎（通称「男子部」）として普通科が設置されました。創立100周年記念誌「百年のあゆみ」を紐解くと、当時の男女共学は「男女の同席を非としてきた日本の歴史的な慣習からみれば受け入れがたい制度」であり、男子部で授業を受けたいた女生徒12人が西校舎に移ったことは「柳井町民を驚かせるほどの出来事」だったといえます。

現在は普通科各学年4クラス、令和4年度は全校生徒400人でスタートしました。

進路状況

卒業後は多くの生徒が上級学校に進学します。例年、大学に進学する生徒の割合は80%を超え、医療・看護系を中心とした専門学校へ進学する生徒が15%程度、少数ですが公務員を志望し就職する生徒もいます。

進路希望の実現に向け、先生方は日々の授業だけでなく、面接や小論文についても熱心に指導していただいています。特に3年生になると、一人ひとり異なる進路希望に寄り添い、個別に指導していただく姿が多く見られます。

学校生活

本校は、文武両道を表す「右文尚武」（ゆうぶんしょうぶ）の校風を継承することとし、確かな学力と強健な心身の育成を目標に掲げています。

生徒は落ち着いた環境の中、勉学に大変熱心に取り組んでいます。一人一台端末の導入やWi-Fi環境の整備など、本校においてもICT

機器の導入が進み、生徒も積極的に活用しているようで、授業の雰囲気も様変わりしたと感じています。

また、本校の総合的な探究の時間は「湧源」（ゆうげん）と言われています。この言葉は本校の卒業生である数学者の広中平祐氏の教育哲学の一つで「汲み取っても湧いてくる智の泉」という意味をもっています。この言葉のとおり、これからの予測不可能な世の中を乗り切る知恵を身に付けてほしいと願わずにはいられません。

学校行事や部活動も盛んで、今年度の文化祭は二日間のうちの一日がサンビームやないで行われ、保護者も観覧することができました。体育祭も3年ぶりに開催され、青空の下、伝統の柳高体操をはじめ、さまざま



保護者・一般授業公開



体育祭



文化祭

な競技に子どもたちが全力で取り組む姿を見ることができました。部活動には約9割の生徒が参加しています。どの部も熱心に活動しており、今年度も軟式野球部をはじめ、

多くの部が上位大会に出場しています。特に、硬式野球部は、1958年（昭和33年）の第40回全国高校野球選手権大会優勝をはじめ、輝かしい歴史と伝統をもっています。偉大な先輩に負けないよう後輩も頑張っており、令和4年度山口県体育大会高校野球競技においては久しぶりにベスト4に進出しました。今年度は創部100周年を迎え、11月に1972年（昭和47年）の第54回国高校野球選手権大会決勝で敗れた大分県立津久見高等学校を招待し、記念試合を行いました。

本校の特徴として、大多数の生徒が年度当初に「右文尚武」の文字が書かれたTシャツやポロシャツを購入し、部活動等で着用しています。部活動単位で同じ色に揃えたり、自分で好きな色を購入したりするなど、「右文尚武」シャツには愛着が深いようです。放課後はグラウンドに校舎内外にカラフルな「右文尚武」の文字が躍っています。

PTA組織について

保護者の住所から、柳井、柳東、柳北、柳西、柳南等、合わせて15の地区に分け、生徒30人あたり1名の地区委員を選出しています。その後、

会長、副会長（2名）、監査（2名）を選出し、副会長1名（教頭）、顧問1名（校長）を加え、PTA役員としています。

地区委員は、PTA懇談会などの行事を企画する「総務部」、PTA会報の発行・文化的行事の援助を行う「広報部」、学校保健安全委員会への出席・校内美化活動の計画を行う「生徒部」、クラス懇談会・大学入試の「てびき」発行を企画する「進路部」に分かれて活動しています。

PTA活動について

今年度もコロナ禍で多くの行事が中止または規模縮小となる中、学校側と協議しながら、可能な限り行事



PTA総会

を実施していくこととしました。

5月14日（土）にはPTA総会を3年ぶりに実施し、多くの保護者が参加しました。総会の後は学年別懇談会や部活動懇談会が行われ、1年間の流れや今後注意すべきこと等について担当の先生からの説明を受けました。

7月2日（土）にはPTA大学進学説明会・3年進路ガイダンスが行われました。県内外22校の大学が参加し、95名の保護者も子どもたちに交じって大学職員の話に耳を傾けました。合わせて、例年行っていたPTA進路部大学訪問の代替として、大学入学に当たりかかる費用や各種奨学金等について説明する「マネープラン講座」が実施されました。多くの保護者が参加し、「大変参考に



PTA美化活動

なった」との感想をいただきました。今後も大学訪問の代替として、より多くの人が参加できる保護者向け講座を実施する方向で検討を進めていきます。

10月1日（土）にはPTA美化活動が行われました。年に一度、教職員と保護者が学校の美化活動に取り組む行事であり、今年度は総勢19名が参加しました。校内の花壇を整備し、チューリップの球根を植えました。

10月15日（土）に行われた授業公開では、多くの保護者が子どもたちの様子を見に、学校を訪れました。

おわりに

今年度は昨年度と比較して学校行事も予定通り行われることが多くなり、保護者として参加する機会にも恵まれました。一方、PTAが主体的に活動するにはまだ時間がかかるかもしれません。今までの活動を踏襲するだけでなく、限られた条件下で子どもたちのために何ができるか今一度考え、教職員と力を合わせて学校を盛り上げていきたいと思っています。

高校生の活躍

環境科学科の輝きを再び

山口農業高等学校 教諭 日高 俊和



本校は、県央部に位置し、明治18年に山口農学校として開校し、幾多の変遷を経て現在に至る農業高校です。今年度、開校137周年を迎え、2万6千人を超える卒業生は、山口県内をはじめ全国各地で活躍しております。

現在設置している学科は生物生産科・食品工学科・生活科学科・環境科学科の4つになります。そのうちの環境科学科の生徒達の活躍を紹介します。

第73回日本学校農業クラブ全国大会北陸大会が10月26日に実施されました。各種競技会のうちの平板測量競技会に本校の4名の生徒が参加しました。競技は、富山県砺波市砺波総合運動公園にて行われました。各地方大会を勝ち抜いてきた全国47都道府県の代表校49チーム（北海道は3つのブロックに分かれており3チームの出場枠を持つ）が、日ごろの練習の成果を発揮すべく胸に闘志を秘め集っていました。

競技内容を簡単に紹介します。はじめにグラウンドに打たれた測点を平板という測量器械を使用して平面図を作る外業作業を行います。その後、境界線や対角線の長さを巻尺で測定し記録します。最後に屋内に移動して、2通りの方法で面

積を求めます。優劣を決める決め手は測量の正確さになります。それ以外にも数字や文字が丁寧に書けているか、図面は図紙の中央付近に記載しているか、必要事項の漏れはないか、計算間違いはないか、作業中の動作に不備はないか、制限時間内に各作業が終了したかなど多種多様な審査項目があり、それらをすべてクリアする必要があります。

本校の生徒たちは、3名が昨年の県大会にも参加しており競技の経験はありました。県大会を突破することも難しく山口農高としては平成27年以来的の全国大会出場となりました。県代表に決まってからは、全国大会の用紙のサイズや野帳の記載事項等が県大会と異なる点を確認し全国大会仕様の練習を重ねていきました。具体的には測量針という先端が0.2mmの細さの針を真つすく立て、三角スケールの1目盛(0.5mm)の10分の1まで間違いなく読む練習をし



たり、数字を製図の際に用いるテンプレートのようなものに近づけたりと競技に必要なと考えられることはすべてできるようにしていました。

競技本番では、5測点を左回りに計測していくという課題でした。想定していた形状の課題だったため慌てることなく生徒たちは競技に臨んでいきました。指導者は、競技場には入れずスタンドから見ることでできないため遠くにいる生徒達をストップウォッチ片手に見守っていました。すべての競技を終えた生徒たちが戻ってきて自己採点をしたところ大きな問題はなかったものの精度が目標の数値に達しなかったということでした。



日本一

山口県立柳井商工高等学校

令和4年度の全国高校総体（インターハイ）において、柳井商工高校バドミントン部女子が学校対抗戦で優勝を果たしました。昨年の全国高校総体に続き、インターハイ2連覇、令和2年度の全国選抜大会、令和3年度の全国選抜大会から全国大会4連覇になります。

このような結果を勝ち取ることができたのも、学校や地域の方々の応援、協力、そして何よりも選手自身が目標と真剣に向き合い、日々の積み重ねを大事にしてきたからこそその結果だと思っています。本当にあの舞台に立たせていただき、最高の景色を見せてもらい、選手には感謝

しかし、その表情はやり切ったという顔でした。翌日、結果発表があり見事に全国1位となる最優秀賞を受賞。あわせて文部科学大臣賞・国土交通省国土地理院長賞を受賞しました。本校としては27年ぶりの**全国1位で四半世紀ぶりの快挙を達成**することができました。過去の優秀な先輩方に肩を並べることができたのではないかと思います。

大きなプレッシャーの中で大業を成し遂げた生徒たちに最大の賛辞を贈りたいと思います。



バドミントン部監督 竹光 唯至

の気持ちでいっぱいです。

これまでの柳井商工女子バドミントン部の実績としては、インターハイで団体3位が2回、ベスト8が1回、選抜大会でベスト8が3回、国体2位が2回と、いつも「日本一」まであと一歩というところでした。

このあと一歩を埋めることができたのは現3年生が1年生のときの3年生のおかげだと思っています。2年前はコロナ禍で選抜、インターハイ、国体とすべての大会が中止になり、対外試合もできず、ひたすら自校での練習が続きました。正直、先が見えない中での日々で、「何のため

に練習をしているのか?」「何を目標に過ごすのか?」もちろん私たちだけでなく、どの競技、選手も感じていたのではないかと思います。それでも当時の3年生部員全員が「これからの柳井商工のために卒業の日まで最後まで全力で取り組みます。」「残る先輩が絶対に日本一をとってくれると信じて最後までチームファーストで取り組みます。」そういった卒業式の日まで誰一人として手を抜くことなく全力で練習に取り組んでくれました。その姿を見て、実際に先輩のチームへの想いやプレーを肌で感じて、選手は変わってきました。バドミントンと「真剣」に向き合い、バドミントんに「熱意」と「情熱」を持って取り組むようになった。

自分に矢印を向け、自分自身と向かい合い、自分に足りないものは何なのかを真剣に考え、努力を積み重ねた。「チームのために」自分は何ができるのか、何をすべきなのかを一人ひとりが考えるようになった。

昨年の選抜大会での初めての日本一。そして本番の夏のインターハイでの日本一は、選手は

昨年一緒に戦えなかった先輩たちの想いを継いで、今までの多くのOB・OGの残してくれた柳井商工の伝統を継いで、選手一人一人がチームのた



めに懸命にプレーをしてくれた結果だと思っています。

今年のチームは、また新しい目標を立ててチーム作りをしてきました。チームとしては、選抜、インターハイと大会連覇はもちろん、団体、ダブルス、シングルの完全制覇、そして国内だけでなく、世界の舞台で戦うという目標を共有し、過ごしてきました。

結果としては、団体戦では大会連覇、全国大会4連覇という結果を残しましたが、インターハイの個人戦では思うような結果を残すことができませんでした。それでも、選手は今まで感じたことのない周囲からの期待やプレッシャーと葛藤しながらも逃げずに立ち向かい、目標達成のために準備を重ね、最後の最後までチームのため、仲間のためにプレーしてくれました。試合で勝った負けたではなく、選手が努力し、人として大きく成長してくれたこと、みんなで積み重ねたあの日々の時間が私にとって一番の宝物になりました。

今は、また新チームになり、新しい目標に向かって進んでいます。選手も私も現状に満足せず、更に上を、新しい景色を見たいと思っています。人が変われば、チームのカラーも、もちろん変わりますが、先輩たちが残してくれた想いと良い伝統を引き継ぎ、感謝の気持ちを忘れずに精進していきたいと思っています。

2028年ロサンゼルスオリンピックでは、世界をあとと驚かせる選手をここ「柳井」から輩出し、彼女たちの最高の笑顔が見られると信じています。

令和4年度「高校生熟議2022」開催

令和4年11月29日(火) 熊本北高校

において開催された高校生熟議の様子について紹介します。6名からなる全10グループ(グループ構成例…2学年の生徒4名、学校運営協議会委員1名、教員1名)に分かれ、Aグループ(5グループ)は「校則について」、Bグループ(5グループ)は「地域の活性化について」というテーマで、各グループの企画案作成に向けて熟議が行われました。総合司会者(代表生徒)による全体進行及び各班の議論を促進させる役割のファシリテーター(あらかじめ研修に参加した生徒会役員)の進行により、参加者全員が意見を出し合いました。

前半(第1ラウンド)「約30分」では、現状や課題について出し合い、後半(第

2ラウンド)「約30分」では、課題等の解決のための具体的なアイデアを出し合いました。そして最後に、各グループの発表(各2〜3分)が行われ、Aグループからは「アルバイト・服装・頭髪・スマホに関する各規程の見直し」等について、根拠も示しながら説得力のある提案があり、Bグループからは「高校内にカフェを作り、地域交流の場にする」「文化祭と地域のイベントを共同開催する」等の企画が提案されました。

高校生目線や保護者・地域目線、教員目線で、参加者がそれぞれの思いを自由に述べ合い、共有しあうことにより、校則の在り方や、地域の現状や課題などについて考えたり、気づいたり、提案したりすることで実りの多



見舞金給付事業

☆ 傷病見舞金

補償期間 4月1日～翌3月31日

見舞金負担金 全日制 300円

定時制 150円

被保険者

* 生徒（日本スポーツ振興センターの決定に基づき給付）

見舞金（最高4万円）

香料 3万円

* 保護者（PTA活動中のみ）

入院見舞金 最高3万円

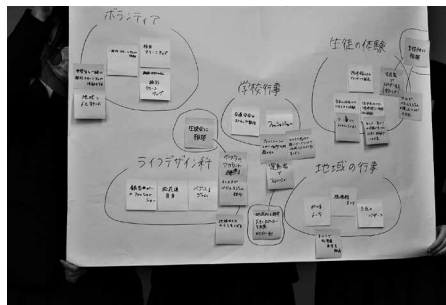
香料 3万円

☆ 障害見舞金 10万円

☆ 死亡見舞金 10万円

い熟議となりました。後日、各グループが模造紙に作成した熟議のフロー図を廊下に掲示し、全校生徒・教職員で共有しました。

高P連の後援による「高校生熟議」は熊毛北高校では今回が初めての取組です。コロナ禍の中、2会場に分かれて、三密防止対策を十分に行った上で実施しました。高校生熟議は、山口県や地域、各々校における様々な課題について高



校生の視点で主体的に考えることを通して、生徒たちのコミュニケーション能力を育み、主体的思考力や社会参画意識を高めるということを目的の一つとしている取組です。今後、さらに多くの学校において熟議が開催されますようご検討をお願いいたします。なお、熟議に関するお問い合わせは、高P連事務局までお願いいたします。



令和4年度 災害負傷状況

（令和4年12月末日現在）

運動種別件数

種別	件数
野 球	13
サッカー・フットサル	23
バ ス ケ	13
ハ ン ド ボ ー ル	1
バ レ ー ボ ー ル	4
ラ グ ビ ー	4
テ ニ ス	1
陸 上	4
バ ド ミ ン ト ン	1
柔 道	1
そ の 他	7
計	72

傷病見舞金 額別

見舞金	件数	合計額
¥10,000	18	¥180,000
¥20,000	6	¥120,000
¥30,000	4	¥120,000
¥40,000	11	¥440,000
¥50,000	41	¥2,050,000
計	80	¥2,910,000

学校管理下状況件数

発生時	件数
授 業	12
部 活	58
登 下 校	4
学 校 行 事	3
そ の 他	3
計	80

障害見舞金

合計額	件数
	0

入院見舞金

合計額	件数
	0

部位別件数

部位別	件数
骨折	32
脱臼	5
半月板損傷	10
半月板断裂	9
靱帯損傷	15
靱帯断裂	13
打撲傷・挫傷・挫創	11
捻挫	14
脳挫傷・頭部外傷・くも膜下出血・脳震盪	1
軟骨損傷・炎症・骨炎・軟骨炎	0
アキレス腱断裂	0
ヘルニア・腰椎分離症・腰痛症	4
関節炎・関節痛症・偽関節・関節唇損傷	5
血腫	1
マレット指	2
その他	15
計	137

（重複しています。）

各校PTAの構成員である

先生方のための補償制度

山口県公立高等学校PTA連合会 教員総合補償制度

主な補償内容（2023年2月現在の内容です。）

- ① 先生方の職務遂行に起因する法律上の損害賠償責任を補償〈施設所有（管理）者賠償責任保険〉
- ② 先生方の個人生活に起因する法律上の損害賠償責任を補償〈普通傷害保険個人賠償責任補償特約〉
- ③ 先生方のケガの24時間補償〈普通傷害保険〉

詳しくは下記取扱代理店・扱者

フリーダイヤル 0120-084-025

「教員総合補償制度係」までお問い合わせください。

制度引受
保険会社

AIG損害保険株式会社 中国・四国地域事業本部（広島支店）

〒730-0011 広島市中区基町12-6 富士火災広島ビル TEL 082 (535) 6010

受付時間：午前9:00～午後5:00（土・日・祝日・年末年始を除く）

取扱代理店・扱者 **NOSCOインシュアランスサービス株式会社**

〒730-0013 広島市中区八丁堀14-10 TEL 0120-084-025

受付時間：午前9:00～午後5:00（土・日・祝日・年末年始を除く）

【承認番号 D-006336 (2024-01)】

令和5年度 山口県ひとづくり財団

高等学校等奨学生募集のお知らせ

山口県ひとづくり財団では、向学心に富み、有能な素質を有しながら、経済的理由により修学が困難な生徒に対し、奨学金の貸与（無利子）を行っています。

《出願の資格》

- 保護者等が山口県内に住所を有しており、高等学校等に在学している者
- その他団体の貸与型の奨学生でない者

《募集期間》

令和5年4月10日（月）～4月28日（金）

※出願に必要な書類の入手、提出は学校経由となります。

詳細は、学校または奨学センターにお問い合わせください。

公益財団法人 山口県ひとづくり財団

奨学センター

753-0072 山口市大手町2番18号

山口県教育会館内

☎ (083) 933-4770

HP <https://www.hito21.jp>

2023年2月以降の内容です。

任意加入

山口県公立高等学校PTA連合会 高校生総合保障制度

こども総合保険
自転車総合保険

大切なお子さまのさまざまな危険にそなえます。

- ① 学校内外、土・日すべてを含む1年365日24時間補償。
(学校管理下財産補償を除く)
- ② 賠償事故に関しては
示談交渉サービス付帯(国内のみ)です。
- ③ 自転車事故でのケガの補償が、
すべてのプランで充実しています。
- ④ ケガによる入院・通院、病気による入院・手術で
10万円以下のご請求は、電話による事故報告のみで
お支払いします。

※この保障制度のパンフレットは、毎年ご進級・新入学時に学校で配付されます。
 ※具体的な補償内容は、プランごとに異なります。
 ※詳しくはパンフレットをご覧ください。
 ※具体的な内容については、下記、「お問合せおよび相談窓口」へ
 お問い合わせください。

2023年度
自動更新方式で掛け忘れなく、高校卒業まで補償がつながる
山口県公立高等学校PTA連合会の
高校生総合保障制度
ご加入のすすめ
(こども総合保険・自転車総合保険)
1年分の掛金
3,640円
(NSプランの場合、月々するとわずか約303円)
オンラインでも
お申し込みいただけます!!
個人賠償責任補償(国内事故のみ示談交渉サービス付き)
ご家族全員が対象
●自転車事故で
相手に大ケガを
させてしまった...
●学校で壊れた
タブレットを
家で誤って壊してしまっ...
●投げたボールがそれで
他人の家の
ガラスを割った
●小学5年男子児童の自転車衝突で母親に約9,520万円の賠償命令(神戸地裁判決)
お子さまのケガ補償
●自転車で
転倒して
ケガをした
●自宅で
階段から
おぼて
ケガをした...
●部活動中に
熱中症に
なった...
●ご加入のお子さまのケガを休日も含めて24時間補償!!
お申込締切日
加入依頼書申込み 3月31日(金)(有印有効)
オンライン申込み 3月31日(金)(3時59分)
補償(保険)期間
2023年4月1日午前0時から
2024年4月1日午後4時まで
年間掛金口座振替締切日
6月27日(火)
【ご注意】新入生の方へ「すでに加入されている方は、今般のお申込みは不要です。3月に「自動更新のご案内」を郵送していますので、
ご確認ください。

お問合せおよび相談窓口

制度内容・加入手続き、
事故についての
ご相談、住所変更、転校など
午前9:00～午後5:00(土・日・祝日・年末年始を除く)

0120-714-855

加入者サービス

- ハロー健康相談24
電話による健康・医療・ストレスに関するアドバイスをします。
 - セカンドオピニオンアレンジサービス
お子さまの病状・症状の相談をお受けします。
 - メンタルケアカウンセリングサービス
心の専門家による面談カウンセリングをご提供します。
- ※上記サービスは、補償期間(保険期間)中、引受保険会社が
ディーベック株式会社に委託してご提供します。
今後、予告なく変更・中止される場合があります。

山口県公立高等学校PTA連合会

〒753-0072 山口市大手町2-18 山口県教育会館内
TEL 083 (923) 4761 FAX 083 (923) 4785

制度引受保険会社

AIG損害保険株式会社

中国・四国地域事業本部 広島支店
〒730-0011 広島市中区基町12-6
富士火災広島ビル TEL 082 (535) 6010
受付時間:午前9:00～午後5:00(土・日・祝日・年末年始を除く)
(取扱代理店) NOSCインシュアランスサービス(株)
TEL 082 (228) 1222
受付時間:午前9:00～午後5:00(土・日・祝日・年末年始を除く)

この広告は制度商品の概要をご案内したものです。詳細は「お問合せおよび相談窓口」までお問い合わせください。

【承認番号 S-230289 有効期限 2024-03】

全国高P連賠償責任補償制度

児童・生徒
賠償責任

※学校(PTA)単位での申し込み(年間掛金 400円×生徒数)
生徒に過失があり、他人の物を壊したり
他人をケガさせたりしたときの保険です。

PTA
賠償責任

PTA(団体)に過失があり、PTA活動中に、
他人の物を壊したり、他人をケガさせたり、
他人から借りた物を壊したりしたときの保険です。